



# 目次

## 第一部 残された都市

プロローグ……………(一三)

広島……………(二〇)

### 一、爆撃禁止令の出でいた広島

(1) アインシュタインより

ルーズヴェルトへの書簡……………21

(2) マンハッタン計画……………22

(3) 原爆完成目標——一九四五年八月一日……………24

(4) ニュー・メキシコからヒロシマへ……………26

### 二、戦時下の広島

(1) 空襲は何故ないのか？……………28

(2) 富国強兵と広島……………29

(3) 爆心地……………33

(4) 一九四五年八月六日……………36

## 第二部 炎の中から

——失なわれたものと残されたもの——

炎の中から……………(四二)

### 一、その朝の爆心地

(1) 電話 その一……………42

(2) 電話 その二……………43

(3) 横川で……………45

(4) 牛田で……………47

(5) 材木町で……………47

(6) 造船所で……………50

(7) 疎開先で……………51

### 二、その日

(1) 爆心地「中島」……………53

(2) 幻の爆心生存者……………54

(3) 炎の中の中島……………55

(4) 焼けたニワトリ……………57

(5) 本川橋……………61

(6) 爆心に生き残っていた人びと 65

(7) 慈仙寺 66

(8) 地下足袋が燃える 68

(9) みんなだったんだから…… 71

(10) 元安橋 その一 73

(11) 元安橋 その二 77

(12) 火が舞うて…… 79

(13) 岡山の水蜜桃 82

(14) 廻ぼる舟 84

三、夜を徹して

(1) 手記 その一 91

(2) 手記 その二 94

(3) 落ちていた雑糞 99

(4) 相生橋に泊った人びと 101

四 夜が明けて―八月七日―

(1) 「おじさん、キルものはないですか」 104

(2) 焼けた女時計 108

(3) 三姉妹 113

(4) 誓願寺に集まった人たち 116

(5) みんな死んでいた 119

(6) 何もかも変わった 122

(7) 川の中のわが子の遺体 128

(8) 全部の骨を少しずつ 129

(9) ひとりぼっち 131

(10) 相生橋・慈仙寺ノ鼻・元安川 131

(11) 被爆の実態―調査の経験から― 133

残された傷跡……………(140)

一 断絶

(1) 断絶の街 144

(2) 生き残った人の断絶 150

二 残された身体の傷

(1) 被爆による身体的な後遺障害 153

(2) よくわからない身体障害 156

(3) 社会的後遺障害 160

(4) 被爆者のおかれている状況 162

(5) さまざまな被災調査 166

第三部 広島から広島への復元へ

―鎮魂から平和原点への道のり―

広島の空白……………(170)

一 爆心の空白

(1) 確定せぬ犠牲者の数 171

(2) 被爆実態をつかめぬ空白 179

二 爆心調査の系譜

(1) 「爆心半径五〇メートル」 183

(2) 広大原医研調査 186

(3) 爆心復元―市民・メディア・学界の握手 192

(4) 爆心追跡調査 198

(5) 市民運動を通して「全体へ」 202

三 市民の胎動

(1) 手書きの戸別地図 208

四 ノー・モア・ヒロシマ 213

(1) ダモクレスの剣 216

(2) 原水禁運動と「広島」 233

五 広島風化と模索

(1) 原点広島風化 225

(2) 始まった「広島」の模索 233

爆心復元の論理と構想……………(二二六)

一 爆心復元の論理

(1) 核時代に 238

(2) 素朴な疑念―結びあうもの 240

二 追跡調査の構想

(1) 血の通った調査 242

(2) 総合調査 243

(3) 基礎調査と「爆心復元」 246

(4) 本調査と生活史のあとづけ 249

(5) 「爆心復元」のひろがり 252

三 爆心復元の意味するもの

被爆地図復元運動……………(二二七)

一 被爆地図復元運動を支えるもの

(1) 被爆者・市民の「地図作り」 257

(2) 行政の役割 260

(3) 学界・研究機関の体制作り 263

(4) 報道機関の参加 263

二 被爆地図復元調査のもたらすもの

(1) 被爆地図 265

(2) 被爆者戸籍と家族別ファイル 265

(3) 核時代の良心の証 266

(4) 被爆地図復元の実施・推進組織 267

(5) 爆心復元の現状 269

三 爆心復元の課題

エピローグ……………(二二四)

参考文献……………(二二七)

あとがき……………(二二九)